

# 大麦特報 (第2号)

平成30年10月  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

播種作業は、降雨の影響で遅れ、10月上旬から始まっています。  
これから播種するほ場は、土壌が乾くのを待って、遅くとも10月中に播種しましょう。

また、年内の生育量をしっかり確保するため、**排水対策**の徹底や、  
分施ほ場では**年内追肥**を確実に行いましょう。

## 1 排水対策の徹底

大麦は、水が溜まると根腐れ症状（湿害）が発生し、生育不良となります。  
ほ場内の排水状況をこまめに確認し、**排水溝の手直し**をしましょう。

### ○排水対策のチェック項目

- ①縦溝と横溝をしっかりと連結する。
- ②溝が埋まっている所や浅い所を手直しする。
- ③額縁排水溝を排水口に確実に連結する。
- ④排水口を掘り下げ、雨水が円滑に排水されるようにする。



③溝の排水口への連結確認

④排水口の掘り下げ確認

## 2 播種後1ヶ月追肥（分施ほ場）

年内追肥は、茎数の増加を促すことで、穂数や収量を確保する重要な作業です。  
播種時期に応じ、遅れないように施用しましょう。

### 【施用時期及び量の目安】

施用時期	肥料名	10a 当たり施用量
播種後1ヶ月頃	硫安	20kg

※肥効調節型基肥肥料(LP大麦48号)を施用した場合は、原則追肥しない。